

## 処女プロフィール

お名前：聡子さん（仮名）

年齢：35歳

身長：151cm

3サイズ：B.80cm(Bcup)/ W.57cm/ H.85cm

職業：地方公務員

好きな映画ドラマのジャンル：コメディ

学生時代の部活：バトミントン

家族構成：父母と同居。（双子の妹がいるが結婚して独立）

服装：森ガール系

休日の過ごし方：ウインドウショッピング

彼氏いない歴：17年

デートしてない歴：17年

キス経験：無し

オナニー経験：無し

初恋の年齢と相手：S4年生の時。クラスメートの男の子

異性とした今までで一番エロい事：初恋の男の子と手を繋いだこと

## 処女プロフィール

お名前：智子さん（仮名）

年齢：38歳

身長：165cm

3サイズ：B.87cm(Ecup)/ W.60cm/ H.84cm

職業：広告代理店営業職

好きな映画ドラマのジャンル：アクション

学生時代の部活：バレエ

家族構成：一人暮らし（実家には父母と弟がいる）

服装：お姉ギャル系

休日の過ごし方：呑んでます！

彼氏いない歴：38年

デートしてない歴：3ヶ月

キス経験：王様ゲームでなら有ります！

オナニー経験：28歳から。週に5回

初恋の年齢と相手：14歳。皆で一緒によく遊んでいた同級生。

異性とした今までで一番エロい事：

酔ってチンチンをズボン越しに触った事

## 処女プロフィール

お名前：真美さん（仮名）

年齢：30 歳

身長：162 c m

3 サイズ：B.90cm(Fcup)/ W.67cm/ H.86cm

職業：事務員

好きな映画ドラマのジャンル：アニメ

学生時代の部活：帰宅部

家族構成：父母、祖父母と同居

服装：カジュアル系

休日の過ごし方：DVD 鑑賞

彼氏いない歴：30 年

デートしてない歴：30 年

キス経験：無し

オナニー経験：C2 の頃に少し…今でも 2、3 ヶ月に一回。

初恋の年齢と相手：某少年誌テニス漫画の…

異性とした今までで一番エロい事：すいません。思い浮かばないです。

## 嫌がりながらも徐々に火照っていく聡子さん

本数が少なく薄いアンダーヘアを見ながら服を一枚、一枚丁寧に優しく剥ぎ取っていく。上着を脱がせシャツも脱がせ、下着…にも手を伸ばしたがこれは頑なに手でガードされた。

最も既にブラジャーは上に捲りあげた状態なので、手を振りほどけばおっぱいは丸見えである。

「もう止めて…」

顔を真っ赤にして横を向き涙目で訴えてくる。

ヤバいから引くか…という感情が少しだけ沸いた。

が、それ以上に可愛すぎる駄目だ耐えられないという感情が一気に心を塗りつぶした。

「分かりました。でもパンツがどうしてこうなっているのか教えて頂けませんか？」

脱がせたパンティの染みを見せつける。

パンツの染み部分を指でなぞって離す。

いやらしい愛液の糸がパンツと指先の間で引き合う。

.....

陰核の皮を剥く。小粒の可愛らしいクリトリスが表れる。

人差し指で優しくクリトリスを撫でる。

「あ！あッ！ああ！」

ちょっと撫でただけでも凄い反応だ。

「敏感なんですね」

「変な感じで始めてだから…」

小さい声で呟く様に答えてきた。

無視され続けたのに返答があった。チャンスだ。

心の中でガッツポーズを浮かべながら、膣口の周りを舌先で優しく舐めていく。

尿とコンデンスミルクが混ざった科のような不思議で強烈な臭いが鼻を刺激する。

キツイ。

だが不快感は無い。

「あ！ああ！ああー！」

大きな喘ぎ声が間髪無く耳に入ってくる。

同時にとんでもない量の愛液が俺の口内に流れ込んでくる。

乳首も再び弾き始める。

先程とは比べ物にならない程の固く立った感触が指先に伝わる。

## 酔った勢いで男を買い処女喪失する智子さん

唇を放し首筋に顔を近づけたその時だった。

「待って！…私が責める」

「そ、そう…ありがと」

激しい剣幕で大声を出され俺は委縮した。

寝転んだ俺に智子さんは覆いかぶさる。

身体の動きは固い。表情はこわばっている。

緊張している事が丸わかりだった。

「！」

乳首を舐めてきた。

先ほどのディープキスの時と違い舌の動きは遅い。

その上たどたどしい。

ピチャ…ピチャ…

舐める音は緩やかで可愛らしい。

ピチャ…ピチャ…

15分くらい片乳首のみを舐められた。

「乳首好きなの？」

「え、ええ。だ、大好きよ。でもどうしてそんな事聞くの」

「いや…長い時間舐めてるから」

「そ、そ、そうつい夢中になり過ぎちゃったみたいね…

つ、次のをするわね」

「固い…大きい…さっきとは全然違う…」

肉棒を両手で力強く握りしめてきた。爪もたって痛い。

「いた！」

智子さんは慌ててチンポから手を振りほどく。

「ご、ごめんなさい！大丈夫！？」

「だ、大丈夫。大丈夫」

慌てふためくりアクションが凄く俺も驚いてしまう。

「あの…その…どうすれば良いの？」

「えーっと緩く握って上下にしごいてくれるのが良いかな」

「こ、こう？」

## 怖がりながらも勇気を振り絞る真美さん

「…キスは嫌」

眩く様な小さい声でそう口を開いた。

「え！え！？じゃあキス以外は大丈夫なの？」

色んな事への安堵感から俺はテンション高くそう聞き返す。

「……」

小さく頷いたかのように見えた。

行けるか！とも思ったが確証が無かったので恐る恐る手を胸に再度伸ばす。

猿の尻の様に顔を真っ赤にして唇を嚙んでいる…。

が、抵抗する素振りはない。

やはり確証が持てない。

俺は思い切ってズボンのチャックを降ろし、勃起したモノを見せつける。

真美さんは両手で顔を覆い隠す。

「…舐めて」

真美さんは顔を手で隠したままの状態でも固まった…かのように見えたが、

目の部分を覆い隠している指と指の間を少しだけ広げて、

薄目でチンポを確認している事に俺は気付いた。

その状態から、ゆっくりと顔を覆う手を解いていき、

腰をしゃがませて薄目のまま振るえながら俺の股間に顔を近づけてくる。

「！」

亀頭に唇の柔らかい感触が伝わる。

「それは嘘でしょ。小さい頃お父さんのとかお風呂で見たでしょ」

「…25年ぶり位だと思う」

「それと比べてどう？」

「固くて…大きい…」

「他には？」

「暖かくてどくどくしてる…」

「グロいでしょ？」

「…分からない」

「好きになりそう？」

「…分からない」